



夏休み前に借りた本の返却をお願いします

楽しい夏休みもおわりました。

夏休み前に借りた本は 9 月4日(金)までに返却してください。

紛失・汚損をした場合は、必ず図書館に申し出てください。

新書月間を終えて

7 月は新書月間でした。新書はテーマごと、章ごとに分かれていますので忙しい高校生でも読みやすい本です。

みなさんからたくさんの感想が届いていますので紹介します。今回読んだ新書の感想を友だちと共有し、これからも新書を読んでみましょう。

1 年生 W さんの感想



『理系研究者の「実験メン」』 松尾佑一 著 光文社

自動でタクアンを作るマシンや太陽の光でお米を炊く炊飯器など身近の様々な疑問から研究をするという内容で、実際に疑問に感じたり、「なぜ」と感じたりしたことを素直に研究として実行できる力の大切さを学びました。

また、課題研究に取り組む上でも、食に関する疑問などの問題発見力が大切だと知りました。

1 年生 Y さんの感想



『「推し」という病』 加山竜司 著 文藝春秋社

私はこの本を読んで、共感できるところとできないところがあった。共感できるところは、「推しのためにマンションを売ったトップオタ」だ。私はマンションはさすがに売らないが、推しのグッズのために何かを売ることがあるので共感できた。また、共感できないところは、二次元に恋をすることだ。私は「どうせ二次元は付き合えないのに」と思うため共感することができなかった。

1 年生 K さんの感想



『女も働きやすい国スウェーデン』 三瓶恵子 著 岩波書店

スウェーデンは世界でも有数の男女平等国です。女性の議員や大臣も多く、父母の育休取得も当たり前の国です。しかしそんなスウェーデンでもまだまだ男女の差別は存在しています。私はこの本を読んでスウェーデンの男女平等政策に感心するとともに、日本も学ぶべきことがたくさんあると感じました。この世界から差別をなくすためにできることはあるのか、考えることができました。

2 年生 K さんの感想



『身の回りの光と色』 加藤俊二 著 裳華房

この本は色の基本的性質から丁寧に説明されていて、普段私たちが色をどのように見ているかが理解しやすかったです。色素や染料など身近なものの仕組みや色にまつわる日本語についても書かれていて、とてもおもしろかったです。科学や環境にも光と色は密接に関係していることを知り、生活する中で意識してみようと思いました。

2 年生 M さんの感想



『合格を勝ち取る睡眠法』 遠藤拓郎 著 PHP 研究所

今まで私は成績を上げるには勉強時間を増やすことが最も大切だと思っていました。しかし成績を上げるには睡眠の質を上げることが重要だということを知り、勉強時間も睡眠時間も充分にとっておこうと思いました。私はテスト前になると勉強時間を優先して睡眠時間を削ってしまっていたのですが、それは逆効果だということがわかったのだとどちらも両立していきたいです。

2 年生 S さんの感想



『漢字にゼツタイ強くなる本』 藁谷久三 著 ロングセラーズ

漢検を受ける予定があったので手にしてみました。覚えにくかった漢字や似ている漢字の使い分けに今まで苦しめられてきましたが、三字熟語や言葉遊びで楽しみながら覚える方法などの様々な覚え方や、漢字の意味などが書かれておりとても楽しく読むことができました。漢字検定の当日までこの本の方法を使ってみましたが、実際に試す前よりも漢字を覚えている量が増えました。

新書感想

2年生 Kさんの感想



『知らない怖い血管の話』高沢譲二 著 PHP 研究所

この本を読んで、自覚症状がないまま進む血管の老化の恐怖を知ることができた。日常のストレスや塩分の取り過ぎなどが突然死につながるんだという事実を知り、日頃から気をつけていかなければと危機感を感じた。最近は運動不足が自身の課題となっているため今後はそこに気を配りつつ、病気を未然に防ぐ生活習慣を心がけたい。この本は自分の生活習慣を見直すきっかけになった。

2年生 Kさんの感想



『炎上して世論はつくられる』山口真一 著 筑摩書房

この本は主に SNS と現実の関係性を書いており、SNS が少しずつ人々の生活の一部になっていること、炎上が起きる理由が「正義感」を動機にしていることを学びました。僕が最も印象に残ったのは「フェイク情報に騙されやすい人は、自分が物事を批判的に考えている、と強く答える人、つまりは自分は騙されないという過信をしている人だ」という文です。

3年生 Kさんの感想



『看護の力』川嶋みどり 著 岩波書店

この本は、看護師として約 60 年間現場で働いた著者が「看護師とは何か」「看護師にしかできない役割とは何か」を自身の経験を元に書いた本で、医療技術だけではなく患者さんが人間らしく生活し自然に回復する力を引き出すことこそが看護の本質だと伝えていて、患者さんの気持ちや生活に寄り添うことも大切なのだと感じました。また何気ない日常のケアが回復につながることを知り、看護の奥深さを学ぶことができました。

3年生 Fさんの感想



『生物はなぜ死ぬのか』小林武彦 著 講談社

この本を読んで、生き物が死ぬということはただ寿命が来るからではなく、進化や命をつなぐために必要だということがわかった。この本を読む前は、「死」は悪いことだと思っていたが、命の大切さや、生きることは死ぬことと深く関わっていることを感じる事ができた。生と死についての捉え方が変わるととても興味深い本だった。

1 学期に多く借りられた本

1 学期は、1年生を中心にたくさんの生徒が本を借りに来てくれました。図書館の本の中で、1学期に多く借りられた本を紹介します！

	タイトル／著者／出版社	あらすじ	請求記号
	変な家 1、2／雨穴／飛鳥新社	知人が購入を検討する中古一軒家。開放的で明るいごくありふれた物件に思えたが、間取り図に「謎の空間」が存在していた。設計士に間取り図を見せると、この家はそこかしこに「奇妙な違和感」が存在すると言う。不可解な間取りの真相とは!?	913/ ウ
	小説 秒速5センチメートル／新海 誠／KADOKAWA	「さくらの花びらの落ちるスピードだよ。秒速5センチメートル」、いつも大切なことを教えてくれた明里と彼女を守ろうとした貴樹。二人の恋の彷徨を描く大ヒット映画の小説版。	913 / シ
	今日から使える心理学／文響社	「認知バイアス」「ペルソナ」「インポスター症候群」。人間の倫理傾向を読み解く「心理学」の中でも、実生活・ビジネスで活用できる「語りたくなる」用語を200超収録。	140 / フ
	古都琴子は好きに生きるので、あしからず／汐見夏衛／スターツ出版	高2の夏。森川涼風の過ごす平穏なクラスに転校生・古都琴子がやってきた。転校初日から、周りの目を気にせず自由気ままに振る舞う琴子は、『ザ・我が道を行く』タイプ。「まあ、私は好きに生きるから、君たちも好きに生きたまえ」匠巻の青春小説。	913 / シ
	ラブカは静かに弓を持つ／阿檀美緒／集英社	少年時代、ある事件に遭遇して以来、深海の悪夢にさいなまれながら生きてきた橘。ある日、上司から呼び出され、音楽教室への潜入調査を命じられる。想像を超えた感動へ読者を誘う、心震える“スパイ×音楽”小説！	913 / ア